

## このひと

日本分析化学会会長に就任される

### 山本博之氏

YAMAMOTO Hiroyuki

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構  
高崎量子技術基盤研究所 QST アソシエイト

1959年12月宮城県仙台市に生まれる。1983年東京理科大学理学部応用化学科卒業、1988年同大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士。同年日本原子力研究所入所。2003年中性子利用研究センター主任研究員、2005年法人統合により日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門研究主幹、2012年同部門研究主席、2016年量子科学技術研究開発機構に転籍、高崎量子応用研究所副所長、2025年より高崎量子技術基盤研究所 QST アソシエイト、現在に至る。1997年日本表面科学会表面科学論文賞、2019年本学会技術功績賞、関東支部常任幹事、Anal. Sci. 編集委員等を歴任し、2021年関東支部長、2022年第82回分析化学討論会（水戸）実行委員長、2023年筆頭副会長、同年8月より会長。

日本分析化学会の会長に山本博之先生が就任されること、誠にありがとうございます。僭越ながら、先生のキャリア及びお人柄について簡単にご紹介させていただきます。

山本先生は、東京理科大学の古谷圭一教授の指導の下、低エネルギーイオンを用いた二次イオン質量分析法に関する研究で1988年に学位を取得されました。私もその後、古谷研究室に在籍することになりますが、山本先生は既に茨城県東海村の日本原子力研究所に就職されており、直接指導を受けることはありませんでした。ただ、OBとして研究室や合宿に頻繁に來られ、当時、研究室の講師であった菊地正先生にお互い半ば強制的になじみの居酒屋に連れられて何度となく飲み会でご一緒させていただいたことを懐かしく覚えております。

日本原子力研究所への入所後は、イオン照射された材料表面の化学状態の解明のため、放射光を用いた高エネルギーX線光電子分光法による非破壊深さ方向分析法の研究などに従事され、表面科学の発展に資する数多くの論文を発表されています。私も古谷研究室で学位を取得し、山本先生のご紹介もあって同じく日本原子力研究所に就職しました。当時は、バブル崩壊後の就職氷河期で新規採用はなく、中途採用に応募してなんとか就職することができました。私が配属された部署は山本先生とは異なりましたが、同じ分析屋ということで科研費を共同で獲得し、放射光施設での実験や論文、国際会議発表などを通じてご指導いただきました。

なお、日本原子力研究所は、2005年に核燃料サイクル開発機構と統合され、日本原子力開発機構に改組されています。その後、2016年には、日本原子力研究開発機構の一部であった高崎量子応用研究所などが新法人の量子科学技術研究開発機構に移管されることとなり、そ



れに伴い山本先生も新法人に移られました。当時は、組織が別々になることで疎遠になると思ひ、残念な気持ちでいっぱいでした。案の定、その後はあまり頻繁にお会いすることもなくなりましたが、日本分析化学会関東支部の茨城地区分析技術交流会で幹事としてご一緒させてもらうなど、引き続き、お世話になっております。なお、本交流会は、2004年に設立され、山本先生は初期よりこの会にかかわってこられました。コロナの影響で中止の年もありましたが、今年で19回目を迎えます。毎年、産官学から100名以上の参加者があり、分析技術者の地域の交流の場として重要な役割を果たすに至っています。是非、茨城県以外の皆様にもご参加いただき、アットホームな雰囲気を感じていただければと思います。

ここから、山本先生のお人柄についても少し述べさせていただきます。皆さん十分ご存じのことと思いますが、山本先生は非常に温厚な方で、いつどんな時も、誰に対しても穏やかな態度で接しておられます。飲み会の場でも、自分から率先して話すことはあまりなく、みんなの悩みや愚痴をじっくり聞いて助言をされたりしておられます。そんなことではリーダーシップを発揮できないのではと心配するのですが、結果としてきちんと先頭に立って人や組織を束ねておられる。おそらく、その人柄に引きつけられ、みんなが協力したくなるからなのだと思います。私もいつもその術中にハマっています。2022年に水戸で開催された分析化学討論会でも、コロナの影響が残る難しい状況下での開催でしたが、実行委員長として遺憾なくリーダーシップを発揮され、対面を主体とする会を成功に導かれました。このようなお人柄を踏まえ、日本分析化学会の会長として山本先生が適任者であることは間違いありません。皆さんもままと術中にハマってください。

最後に、今後も会長として学会の様々な課題に対処すべく尽力されると思いますが、なんといっても健康第一ですので、くれぐれもお体を大切にしてください。山本先生のこれからの活躍と日本分析化学会の益々の発展を心より祈念いたします。

〔国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 江坂 文孝〕